

とやまじょうし へんせん
・富山城址の変遷・

とやまじょう わたし く まち
富山城と私たちが暮らす街

いと
～どのような系でつながっているのでしょうか～

とやまし きょうどはくぶつかん とやまじょう
富山市郷土博物館 (富山城)

もく じ
目 次

はじめに	・・・・・・・・ 1
とやまじょうし へんせん 富山城址の変遷	・・・・・・・・ 2
めいじ じだい はなし (1) 明治時代のお話	・・・・・・・・ 4
さん の まる かいたい まち ① 三之丸の解体と街づくり	・・・・・・・・ 5
に の まる かいたい ② 二之丸の解体	・・・・・・・・ 8
ひがしのでまる ちとせ ごてん かいたい ③ 東出丸・千歳御殿の解体	・・・・・・・・ 9
とやまけんちょう とやまじょうし ④ 富山県庁と富山城址	・・・・・・・・ 10
しょうわしょき はなし (2) 昭和初期のお話	・・・・・・・・ 13
せんご はなし (3) 戦後のお話	・・・・・・・・ 15
てんしゆかく けんせつ * 天守閣の建設*	・・・・・・・・ 17
とやまじょう せんもんはくぶつかん 富山城の専門博物館	・・・・・・・・ 18

はじめに

富山市郷土博物館（富山城）は、約2年半にわたる改修工事を終え、平成17年11月3日に、富山城の歴史を紹介する博物館としてリニューアルオープンしました。展示室に入ると、そこには新しい展示テーマ「富山城ものがたり」の世界が広がっています。

富山城の歴史といっても、あまり詳しいことは知らないなという方が多いのではないのでしょうか。それでは、簡単に富山城の歴史を振り返ってみましょう。

富山城は天文12年（1543）に、神保長職によって築られました。実際の縄張りや家臣の水越勝重によってなされたと伝えられています。その後、越後長尾氏（上杉氏）や一向一揆などによる争奪の場となり、さらに佐々成政、前田利長の居城となりました。次いで加賀藩から富山藩10万石が分藩し、寛永16年（1639）に初代藩主前田利次が入城しました。以後、明治時代に至るまで、約200年の間、富山前田家13代の居城でした。

現在の城址公園は、この富山城の跡地であり、郷土博物館も城址に建っています。でも、現在の公園や街並みを見て、富山城の姿を想像することは難しいと思いませんか。そこで、博物館のリニューアルオープンを機に、まずは今私たちが暮らす街と昔の富山城のつながりを知るため、明治時代以降の富山城址の変遷を見てみることにしましょう。



明治時代後期の富山城址

石垣を南から堀越しに見たところです。現在は右の石垣上に天守閣が建っています。

富山城と私たちが暮らす街は、どのような糸でつながっているのでしょうか。

とやまじょうし へんせん 富山城址の変遷

あなたは、城址公園を見て、富山のお城は小さかったんだと感じたことはありませんか？

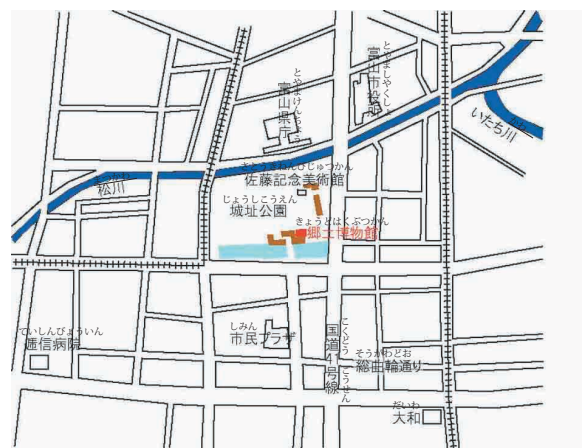
確かに、現在の城址公園だけを見ると、小さいお城だったんだと思いますよね。しかし、本来の富山城はもっと大きなお城でした。江戸時代の富山城は本丸・二之丸・西之丸・東出丸・千歳御殿（中之御屋敷）などから構成されていましたが、この内、城址公園として現在まで遺構が残っているのは本丸と西之丸部分だけです。それでは、城址公園と比べると、江戸時代の富山城はどれぐらいの大きさだったのでしょうか。



江戸時代の富山城



現在の富山城址

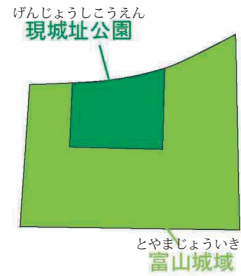


2つの図を重ねてみると…



※江戸時代の神通川は、富山城の北側を流れていました。明治時代以降の改修工事によって、現在の流れになったのです。松川は旧神通川の名残です。

左ページの図は現在の地図に富山城の範囲を重ねた図です。右の図は、黄緑色の部分が元の城域、濃い緑色の部分が現在の城址公園の面積を表しています。城址公園は元の城域の6分の1程度しかありません。このことから、元の富山城がかなり大きかったこと、残っている部分が全体のほんの一部であることがわかりますね。



下の図は、江戸時代の富山城の構成を示したものです。元の富山城はこんなに大きかったのです。

本丸
藩政の中心であり、藩主の住居でもあった本丸御殿がありました。城の中心にあたります。

ほんまるごてん
本丸御殿

東出丸
あまりよく分かっていませんが、江戸時代後期には産物方役所という役所が建っていました。

西之丸
米などを納める土蔵が建っていました。

千歳御殿
江戸時代後期、藩主を隠居した前田利保によって千歳御殿が建てられました。

天守閣
建てる計画はありましたが、財政的な理由などから、実際には建てられませんでした。

二之丸
侍番所や、城の内外に時を告げる時鐘所がありました。入口には富山城で最も重要で、最も立派な二階櫓門が建っていました。

にかいやぐらもん
二階櫓門

三之丸
藩の学校や役所、上級家臣の屋敷などが建っていました。富山城で最も大きな曲輪です。

約610m
約680m

それでは、大きかったお城がどのようにして6分の1になってしまったのでしょうか。また、城址公園部分はなぜ現在まで残ったのでしょうか。そこには富山県庁の存在が大きく関わっています。さて、県庁と城址の保存にはどのような関係があるのでしょうか。

(1) 明治時代のお話

明治という新しい時代の到来とともに、全国各地にあった城郭は大きく変化していきました。富山城も同様で、明治3年には、三之丸内、現在の本願寺東別院と西別院の間の道路から、芝園小学校（旧総曲輪小学校）の西側の道路辺りまでが、順に開墾され練兵場となりました。

その様子は、『富山高岡沿革志』（明治28年発行）によると、「沙漠タル曠原ニシテ更ニ目ヲ遮キル物ナク中ニ一条ノ大道ヲ通スルノミ」でした。つまり、建物が何もない広野に、一本の大きな道路だけが通っていたということです。



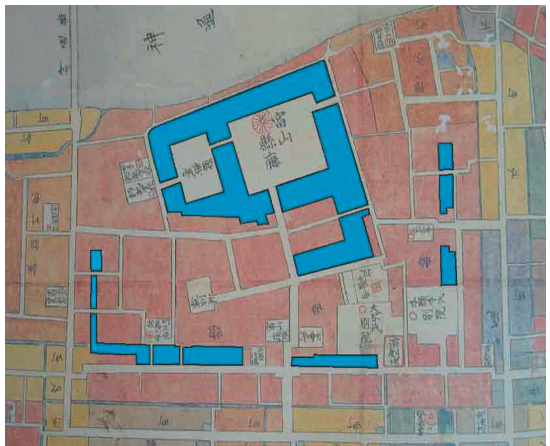
明治18年の富山市街図（部分）です。ピンク色の部分が「総曲輪（惣曲輪）」、オレンジ色の部分が「桜木町」となった所です。

そして明治6年、明治政府により廃城令が出されました。これによって富山城は正式に廃城となり、以後本格的に解体が進んでいきました。千歳御殿跡は「桜木町」、それ以外の部分は「総曲輪（惣曲輪）」という新たな地名が付けられ、順に払い下げられていきました。

明治の廃城後、解体されていったことが6分の1になった理由のようです。それでは、解体が進んでいった部分から順に、その経緯を見てみることにしましょう。

さんのまる かいたい まち
①三之丸の解体と街づくり

まずは三之丸部分です（P2の地図参照）。払い下げが進むにつれて、必要のなくなった外堀が徐々に埋め立てられていき、その跡には新たに建物が建てられていきました。この内、学校や寺院を建てる際には、砂持奉仕が行われました。有志が神通川等から石や砂を運び、堀を埋め立てる作業を奉仕で行ったのです。特に、本願寺東西両別院の砂持奉仕は大きなものでした。富山は真宗門徒の多い土地柄ですから、多くの門徒衆が熱心に奉仕を行いました。



同じく明治18年の市街図（部分）です。青色の部分堀が残っている部分。埋め立てが大分進んでいることが分ります。

それでは、啓迪小学校（後の八人町小学校）新築の際の砂持の様子を、当時の新聞に見てみましょう。

其模様八熟れも大八車に砂を積み載せ、車の左右前後に八砂持等の文字を大書したる数旗の紅白旗を翻がへし、車輪の両端に長き縄を結付け、七八歳の小児輩にハこゝが一番と晴の緋縮緬や天鷲絨の襦袢股引を着せ、華笠を冠らせなど、最と（も）美々敷扮装にて縄に取付き前駆仁和賀連の囃しを拍子にヤンヤ、と市街を打廻り行きつ戻りつ中々の賑ひなり「中越新聞」（明治20.6.13）
ルビは原文を元に付しています。

砂を積んだ大八車の左右前後には「砂持」などと書かれた紅白の旗が翻っています。車輪の両端に結び付けられている長い縄には、7～8歳の子ども供たちが、一番の晴れ着を着てつながって歩いて、囃子の拍子に合わせて賑やかに市街を行ったり来たりしています。



明治25年の市街図（部分）です。上の図と見比べてください。

みんな明るく、賑やかに作業を行っていた様子がよく分かります。人々にとって城の解体は、“破壊”ではなく“新たな街づくり”だったのです。

きゆうじょういき くぎ あたら どうろ つく その内、最も大きなものが先ほ
 旧城域を区切るように、新しい道路も作られていきました。その内、最も大きなものが先ほ
 ど「一本の大きな道路」として出てきた大手通り（現在の大手モール）です。富山城の本丸と
 いっばん おお どうろ で おおてとお げんざい おおて とやまじょう ほんまる
 にのまるをつなぐ土橋、三之丸の屋敷の間の道、そして大手門跡を結んで作られました。

とお けんない もっと みちはば ひろ しょうわしよき しやくしよ がっこう びょういん としよかん しんぶんしゃ
 この通りは、県内で最も道幅が広く、昭和初期まで市役所や学校、病院、図書館、新聞社、
 ゆうびんきょく しょうてん たなら とやま にぎ たい
 郵便局、そして商店などが建ち並ぶ、富山のメインストリートとして賑わっていきました。大
 しょうねん しなきどう しでん かいつう
 正2年には市内軌道（市電）も開通しています。



めいじ じだいこうき おおてとお
 明治時代後期の大手通り

げんざい おおて そうがわどお まじ あに じょうし
 現在の大手モールです。総曲輪通りと交わる辺りから、城址
 こうせん ほうこう み ふうけい
 公園の方向を見た風景です。

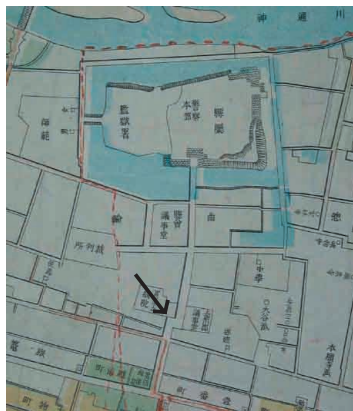


きゆうとやまじょうはらいぎげす
 旧富山城下図

あかいろ あたら びせつ どうろ ちづ まんなか
 赤色が新しく敷設された道路。地図の真中
 たて か かれておてとお
 に縦に書かれているのが大手通りです。

こんなこともありました その1

おおてとお めいじしよき ちず み げんざい しみん あた かぎ てじょう ま
 大手通りについて明治初期の地図を見ると、現在の市民プラザの辺りで鉤の手状に曲
 がつています。これは、おおもん なごり おおてもん ふきん てき しんにゆう さい
 大手門の名残です。大手門付近は、敵が侵入しようとした際に
 ちよくしん ふせ ますがた めいじ ねん たいか
 直進するのを防ぐため枡形になっていたのです。なお、この部分は、明治32年の大火
 あと えんしょうぼうし しょうぼう しんこう いちぶ かくふく ちよくせんどうろ かいしゅう
 の後、延焼防止や消防ポンプの進行のため、一部を拡幅して直線道路に改修されました。



めいじ ねん
 明治25年
 かくひろくまえ かぎ てじょう ま
 拡幅前。鉤の手状に曲がっています。



めいじ ねん
 明治41年
 かくひろくご ちよくせんどうろ
 拡幅後。直線道路になっています。

げんざい そろが わどお しょうてんがい そとほり う た たんじょう はん かがい いずみきょうかさく くらゆり めい
 現在の総曲輪通り商店街も、外堀を埋め立てて誕生した繁華街です。泉鏡花作『黒百合』（明
 じ ねんかん なか つぎ ぶんしょう
 治32年刊）の中に、次のような文章があります。

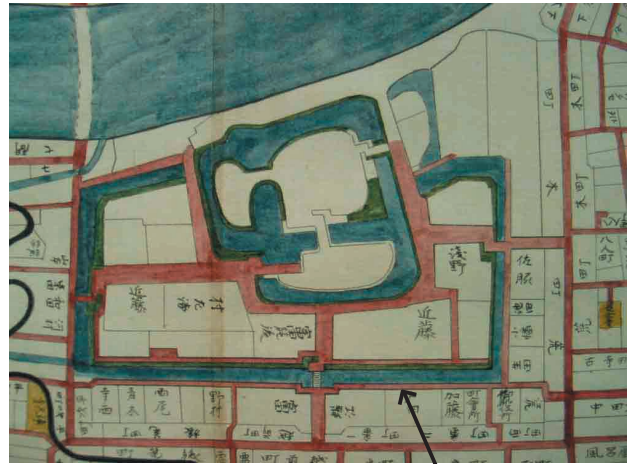
ばすえ とやま にぎや そろが わ おおて さき しる そとほり
 場末ではあるけれども、富山で賑かなのは総曲輪という、大手先。城の外堀が
 のこ みずたまり かたがわまち こあきゆうど のき なら ほり そ ちゅうやこうたい ほしみせ
 残った水溜があって、片側町に小商賈が軒を並べ、壕に沿っては昼夜交代に露店
 だ
 を出す。

めいじ じ だいなか そとほり いちぶ みずたま のこ げんざい そろが わどお
 つまり、明治時代中ごろまでは外堀の一部が“水溜り”として残っていて、現在の総曲輪
 はさ みなみがわ しょうてん みずたま きたがわ どうろ そ ちゅうやろてんしょう なら
 りを挟んで南側には商店が、水溜りのある北側には、道路に沿って昼夜露天商が並んでいたの
 のち みずたま う た げんざい どうろ りょうがわ しょうてん た なら しょうてんがい
 です。後にこの水溜りも埋め立てられ、現在のような道路の両側に商店が建ち並ぶ商店街とな
 りました。



しょうわしょき そろが わどお
 昭和初期の総曲輪通り

めいじしょき どうろ む ひだりがわ
 明治初期、道路の向かって左側には、まだ
 ほり の
 堀の一部が残っていました。



げんざい そろが わどお
 現在の総曲輪通り

てんぽう ねん とやまじょうかす とやまじょうぶぶん
 天保2年（1831）の富山城下図の富山城部分です。

こんなこともありました その2

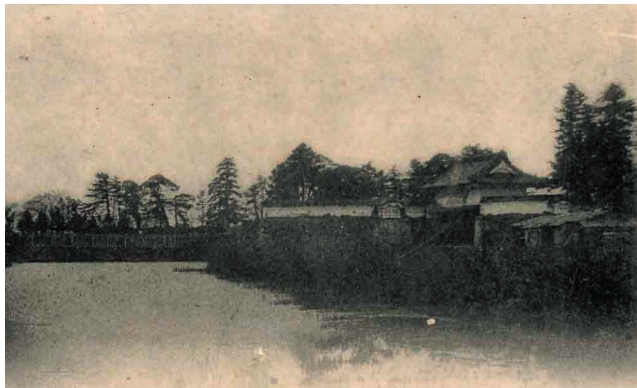
はいはん ちけん ちよくぜん めいじ ねん はん かいたくがかり
 廃藩置県の直前、明治3年には藩の開拓掛が、
 かなざわ れんこん ね と よ そとほり う
 金沢から蓮根の根を取り寄せて外堀に植えた
 という記録があります。恐らく食用にするた
 めだったのでしょう。

せんぜん しょうせんご ほり れんこん はん
 戦前から終戦後にかけても、堀に蓮根が繁
 殖してました。この写真は昭和26年の堀
 の様子です。



②二之丸の解体

次に二之丸を見てみましょう（P2の地図参照）。二階櫓門は、明治8年に俣焉小学校（後の総曲輪小学校）の校舎として使用されました。しかし、同16年に同校が移転すると取り壊され、これと前後して石垣も撤去されました。また、時鐘台は明治時代になってから、西町辻（現在の西町スクランブル交差点付近）に移されましたが、同16年には旧本丸石垣上に再度移されました。



二階櫓門

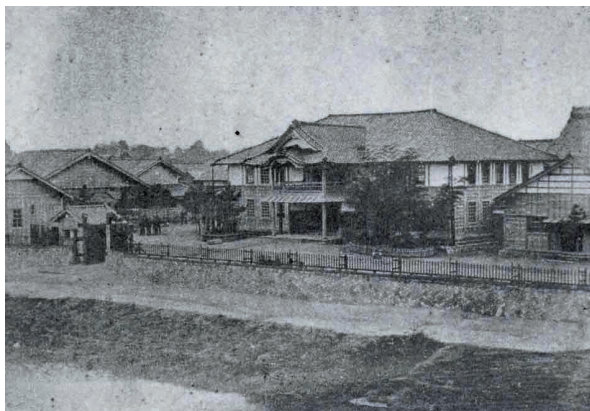
門の2階部分の広さは、意外に広くて、全体で32坪（畳64枚分）ありました。この写真は、現在の丸の内交差点付近から、国際会議場の方向を見た風景です。



時鐘台

明治32年の大火で焼失するまで、人々に時を知らせていました。現在は同じ場所に天守閣が建っています。

明治20年には西側の堀を埋め立てて、県会議事堂が新築されました。東側の堀については、同18年に堀端に新築された富山県中学校の写真に、その一部を確認することができます。しかし、これも同30年代初め頃には埋め立てられたようです。



富山県中学校

校舎前に、堀の一部が写っています。校舎は、現在の市営総曲輪駐車場付近に、北向きで建っていました。



明治20年の富山市街図（部分）です。まだ、二之丸の堀の一部が残っています。

ひがしのでまる ちとせ ごてん かいいたい
③東出丸・千歳御殿の解体

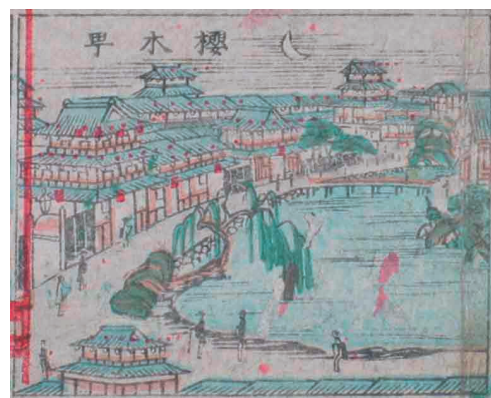
ひがしのでまる さんのまる どうよう はら さ ち ずさんしょう
 東出丸は、三之丸と同様に払い下げられていったようです（P2の地図参照）。

ちとせ ごてん いんきよ はんしゅ す ち ずさんしょう めいじ ねん はんしゅいつ
 千歳御殿には隠居した藩主が住んでいました（P2の地図参照）。しかし、明治4年に藩主一
 か どうきょう うつ よくとし けん めいれい かくち ち げいしょうぎ かしざしき ゆうかく
 家が東京に移ると、翌年には県の命令により各地に散らばっていた芸娼妓・貸座敷（遊郭）が
 あつ ちとせ ごてん いこう と こわ あら
 ここに集められることになり、千歳御殿の遺構はすべて取り壊されてしまいました。新たにで
 かんらくがい さくらぎちょう なづ
 きた歓楽街は桜木町と名付けられました。



ちとせ ごてんあと
 千歳御殿跡

こんなこともありました その3
 ちとせごてん しきち さくら おお う
 千歳御殿の敷地には桜が多く植え
 られていたことから、それにちなんで
 さくらぎちょう なづ
 「桜木町」と名付けられたといわれます。



めいじ ねん とやましがいず えが さくらぎちょう ようま
 明治20年の富山市街図に描かれた桜木町の様子。

このように、さんのまる にのまる ひがしのでまる ちとせごてん つぎつぎ かいいたい すす しがいち いったいか すす
 三之丸、二之丸、東出丸、千歳御殿は次々と解体が進み、市街地と一体化が進
 なか ほんまる にしのまるぶふん のこ りゆう とやまけんちょう かんけい なに
 んでいきました。こうした中で、本丸と西之丸部分が残された理由、富山県庁との関係とは何
 なのでしょうか。それでは見てみることにしましょう。